第 2019-22 号

恵みと真理のニュース

2019 年 06 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

旦那の魂を救ってくださった神様、私の切ない希望を成し遂げてくださった神様に感謝を捧げます

私たちの家族を罪から解放してくださった神様、十字架で血を流して私の罪を贖って下さり新しい命を得るようにしてくださった主を賛美します。毎日、生活の中で主の愛と恵みで共にしてくださる我が神様に感謝を捧げます。
私はイエス様を信じない旦那と結婚して今まで教会に通いながら信仰生活をするのが大変でした。結婚する前は私が教会に通うのを何も言わないと約束した旦那が結婚した後は変えて私を迫害しました。そんな状況でも私は熱心に信仰生活をしました。どころがある日から旦那が酷く迫害をしました。礼拝を愛して教会に行く用意をすると旦那は“なぜ毎日教会だけ行くかい。”と聞いて玄関のドアを開けている時、後ろで旦那は神経質な言い方をして私の心を痛めさせられました。そうして教会に行くと心が痛くて涙が止まらなかったです。多くの時間をそのように心を痛んで礼拝を捧げました。アンヤンで我が教会を仕えている一番上の兄が私をかわいそうに思って旦那に電話をして教会に行きなさいと勧めました。すると、旦那は私をついて教会に来て礼拝に参席しました。しかし、その日が最後でした。教会は１年一度だけ行けばいいのではないか。”と言い、私が一緒に教会に通うと 願う 事はないと話したら旦那は“私は自分だけ信じるよ。誰も信じない。”と言って私の心を傷つけました。
旦那のため私は再び神様に切に祈りました。“主イエスを信じなさい。 主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。御言葉を強く信じて神様を仰ぎました。“主を知らなくて罪の中で生きている旦那を憐れんで下さり、私たちの魂を尊く思う主よ。旦那を伝道するように知恵と能力をください。最後まで忍耐して希望を捨てないようにしてください。旦那の救いを与えてくださって私たちの家族がすべて救われ、熱心に主を仕える幸いな生活をするように助けてください。”と毎日のように祈りました。
”そうするうちに２０１５年私たちの家族が他の地域に引っ越しをしました。家を見に来られた一番の上の兄が心を決めて来られたようで、旦那にまことに牧師の説教を聞き教会を通いなさいと勧めました。旦那の否定的な反応でも兄は続けて勧めました。仕方なく行こうと答えた旦那に行く日を決めました。これからは熱心にイエス様を信じ、仕える生活をするように何度も強調しました。
私は旦那が教会に行く前までもっと切に神様に祈りを捧げました。旦那の心が変化されなく決めたその日必ず教会に来るように、イエス様を受け入れて生まれ変わった聖徒になるようにと求めました。以前は旦那が一度も教会に行ってすぐやめたことがあるから “今回も又そうなれるのではないかと、焦り すぐその不安な考えを変えて希望の中で祈りました。 主に自らをゆだねよ／主はあなたの心の願いをかなえてくださる。 （詩編３７：４） わたしを呼べ。わたしはあなたに答え、あなたの知らない隠された大いなることを告げ知らせる。このような約束の御言葉を黙想しながら旦那が教会に行けるように祈りました。
旦那が教会に行こうと約束した前に姑に電話をかけて祈りを頼みました。すると、信仰生活をしたばかりの姑は夜旦那に電話をして福音を伝えて最後の希望だと教会に必ず行くように頼みました。旦那は姑の話に驚きました。旦那は姑が兄のせいで仕方なく教会に行っていると思っていてすぐやめると思ったからです。しかし、私はすべてが神様の摂理で恵みであることを知っています。約束の日になると今年１００歳になった舅を始め 姑と一番上の兄の夫婦とみんなドンタン聖殿に集まって神様に礼拝を捧げました。実に感動を受ける礼拝でした。真の御言葉と聖霊の恵みが充満だった礼拝でした。祈りをして答えられる楽しさを感じ、生涯でこのこと以上に嬉しいことを体験したことはないはずです。旦那はその日、決信をして今まで３年が経ちましたが、相変わらず神様を畏れ牧師の説教に感動を受け信仰が成長しています。ハレルヤ！
以前の旦那を考えると今の私の夫婦が聖殿で一緒に座って神様に礼拝を捧げて家で讃美歌を歌うのが驚くべきことで本当にうれしくて神様に感謝します。所所に聖殿を建って下さり、どこに住んでも家族が同じ礼拝を捧げながら党会長の牧師が説教する神霊な洋食を食べて楽しんで信仰生活をする恵みを与えてくださったことに感謝を捧げます。神様が私たちの家庭をもっと信仰の岩の上に固く建っててくださって家族を主の働き人として用いてくださることを信じます。主に従う人に向かって／主に逆らう者はたくらみ、牙をむくが 主は彼を笑われる。彼に定めの日が来るのを見ておられるから。 主に逆らう者は剣を抜き、弓を引き絞り／貧しい人、乏しい人を倒そうとし／まっすぐに歩む人を屠ろうとするが その剣はかえって自分の胸を貫き／弓は折れるであろう。

［信仰コラム］　イナゴか食い物か

”...ただ，主にそむいてはなりません。またその地の民を恐れてはなりません。彼らはわたしたちの食い物にすぎません...。”（民数記 13:30～33，14:6～9）

人は数多くの問題に直面しながら生きていきます。不可抗力的なことではない問題は人々の考え方と対応態度に従って進行と結果が異なります。従って、私達が学ぶべきことは問題に対する信仰的な考え方と対応態度です。民数記 13 章と 14 章に記録された事件を調べながら問題に対する信仰的な考え方と対応態度を学んでみましょう。
神様が立てられた領導者モ-セの導きの下でエジプトから出たイスラエル子孫が神様が言約なさったカナンの地に向いて行進してパランの荒野にあるカデシに至りました。そこで民がモ-セにカナンの地に回し者を送るよう求めました。モ-セは民の要求を受け入れて、神様の許しと指示に従ってイスラエルの 12 の部族から 12 人を選んでカナンの地を探るようにしました。彼らは 40 日間をその地の地形と居住民そして産物に至るまで綿密に探って帰り、民達に報告しました。
しかし、10 人の回し者はその地を探知した結果として不信仰的な見解と態度を表わしました。10 人の回し者の見解とヨシュアとカレブの見解を対照してみると感覚的な側面では見解が同じでした。しかし、信仰的な側面では見解が互いに異なりました。10 人の回し者は”私達は自分がイナゴのように思われる”、”彼らにもそう見えたに違いない”、”わたしたちはその民のところへ攻めのぼることはできない” としました。
その反面、ヨシュアとカレブは”直ちに攻め上ろう”、”その地を占めよう”、”必ず勝つことができる”としました。
イスラエルの民は 10 人の回し者達の話を聞いて絶望を感じて夜もすがら嘆きながら泣きました。”わたしたちはエジプトの国で死んでいたらよかったのに。この荒野で死んでいたらよかったのに”と話しました。この言葉はイスラエル民が難関に遭う度に叫んだ常套的な言葉であり慣用語になりました。結局、彼らが話した通りになってしまいました。”わたしたちの妻子をえじきとされるのであろうか”と予測する言葉をしました。神様を不信すると完全に外れた予測をします。彼らの子供はヨシュアとカレブの導きの下で皆カナンの地に入りました。
民達は”わたしたちはひとりのかしらを立てて，エジプトに帰ろう。”と言いました。神様とモ-セに対して恨んで不評するだけではなく実質的な代案を持ってきました。このような代案の提示は神様の主権に対する挑戦行為です。神様の御言葉に逆らって代案を立てると自縄自縛になり自分のお墓を掘ることになります。
イスラエルの会衆は肉に属した情報、不信仰的な情報を受け入れた結果で一、情緒的な混沌に陥りました。二、指導者を恨みました。三、神様を恨みました。四、否定的な予測をしました。五、滅ぶ道を選びました。
ヨシュアとカレブは 10 人の回し者が真理を歪曲させる行為と民達が神様を恨んで逆らう行為を到底見つめることができませんでした。民達の考えと態度を正すため、信仰を持つようにするために叫びました。まず、カナンに対する正しい情報を受け入れるように促しました。”わたしたちが行き巡って探った地は非常に良い地です”と叫びました。そしてカナンに入ることにおいて現実的な問題を解決する信仰的な方法を提示しました。神様を喜ばせることが最上の方策だと言いました。”ただ，主にそむいてはなりません。”、”その地の民を恐れてはなりません”と言いました。その理由を三つに説明しました。”彼らはわたしたちの食い物にすぎません”、”彼らを守る者は取り除かれます”、”主がわたしたちと共におられます”としました。カナンの居住民の保護者は偶像でした。その偶像の背後にはサタンがいます。サタンは暗みの権勢を取った者です。光が入ると暗みが退くように光でおられる神様に頼って進んでいく人の前でサタンは退くのが当たり前です。
問題に直面する時、神様の御言葉を忘却したり不信すると自分がイナゴのように劣等に思われます。そうして縮まれて消極的になり、後じさりします。しかし、神様の御言葉を通じて考えると問題が食い物に扱われます。そうして積極的で能動的に対応するようになります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

神の畏敬と親恭敬の道理

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

この世で愛と恵みより宝らしくで美しいのはありません。その第一は、神の愛と恵みで第二が両親の愛と恵みです。今日は まず、子供のための熱く、犠牲的な親の愛についで聖書に記録されたお話を見てみましょう。次は、母の愛と恵みに感謝報恩する道理を見てあわせて神の愛と恵みに感謝する道理について見てみましょう。

まず、聖書に記録された親の愛の崇高なお話を見てみましょう。

偉大な神のしもべである、イスラエルの指導者であったモーセを生んで育てていたモーセの両親のお話が旧約聖書の出エジプト記に記録されています。
ヤコブの息子の中でヨセフがエジプトの総理になりました。ジョセフの招きで、ヤコブの家族70 人余りがエジプトに移住しました。彼らは400 年以上が経つ間に装丁だけが 60 万人います。ヤコブの子孫が繁栄することを恐れているエジプトの王パロは彼らを虐待して、彼らが人の子を産めばナイル川に投げ入れて死ぬように命じ下しました。
このような時にアムラムとヨケベデを通じてモーセが生まれました。モーセの両親は、赤ちゃんを三ヶ月間隠して育てたが、これ以上隠すことができなくなりました。彼らは葦ボックスを作り、水が漏れかからないようにアスファルトとを塗り、子供を入れてナイル川の葦の間に置きました。一方、彼らの娘ミリアムが遠くから見守るようにしました。公主がお風呂しようと川に降りて来て箱を発見し開けてみると、子どもがいました。これを見守ったミリアムがいち早く近寄って、「私が行ってお 公主のためにヘブライの女の中で乳母を呼んで来て、この子に乳を与えますか？」としました。 公主が「行って連れて来なさい。」してからミリアムが走って行って、母を連れてきました。
そしてヨケベデはエジプトの 公主に乳母として雇われて養育費を受けながら息子モーセを育てました。モーセの両親は全力で子供モーセに、ヘブライ人の精神と神への信仰を植えてくれたことです。偉大な指導者モーセが存在した背後には、このように幼い息子を死から生かし偉大な養育をするまで、死を超える親の犠牲の愛と勇気と恵みがありました。
私たちは、聖書に記録されたダビデ王の生涯を通じて子どもに向けた父親の愛情が明らかになった記事を読むことができます。ダビデ王の多くの子の中アブサロムがありました。アブサロムは人物はよく見えたが、彼の心の中に悪い思いがいっぱいいました。彼は父の王位を奪うために軍事を起こし王宮に攻めました。アブサロムは王宮を占領した勢いでイスラエルのすべての部族から軍隊を募集して軍隊を編成しました。そして軍隊を直接率い避難中のダビデ王の軍隊を絶滅させようと作戦を行いました。ダビデ王を護衛し、避難した兵士たちにもかかわらず数が少ないたが、すべてが勇敢な兵士たちでした。彼らはアブサロムの軍事とエフライム薮で合っ命がけで戦った。
アブサロムは馬に乗って緑豊かなクヌギの下に走って行っている途中に彼の長い髪が木の枝に絡み付いてしまいました。乗っていた馬は抜けてアブサロムは木の枝に毛が巻かれたまま空中にぶらりぶらり掛けました。これを見たダビデ王の将軍ヨアブが走ってアブサロムを刺し殺しました。これで反乱は鎮圧され、戦争は終わりました。メッセンジャーが勝利のニュースを抱いてダビデ王にかかっていました。ダビデ王は、勝利を喜びよりも、アブサロムが死んだという知らせを聞いて小部屋に上がって号泣しました。「私の子アブサロムよ！私の子、私の子アブサロムよ、わたしはあなたの代わりに死んだならば、アブサロムああ、私の子は、私の子！」これがすぐに親の心です。息子はそれほど不良も子に向けた親の愛は変わることができないものです。ダビデ王だけではない。理性的には到底に愛することができない子のために目を閉じるまで、涙を流しながら利他て四苦八苦と犠牲に耐えるのが親です。子供のための両親の犠牲的な無限の愛は確かに崇高なものです。
新約聖書で母の信仰的感化が子供に及びになった事実が記録された感動的な聖書の一節がテモテ１章にあります。使徒パウロがテモテへの送りの手紙です。**「わたしは， 日夜， 祈の 中で， 絶えずあなたのことを 思い 出しては， きよい 良心をもって 先祖以來つかえている神に 感謝している． わたしは， あなたの涙をおぼえており， あなたに 会って 喜びで満たされたいと， 切に 願っている． また， あなたがいだいている 偽りのない 信仰を 思い 起している． この 信仰は， まずあなたの 祖母 ロイス とあなたの 母 ユニケ とに宿ったものであったが， 今あなたにも 宿っていると， わたしは 確信している」（ テモテへの第二の手紙 1：3-5）**子に対して親の愛と恵みは、その子供の魂と人格に大きな遺産になります。

次は、母の愛と恵みに感謝し、恩返しする子供の道理を見てみましょう。

子供は親の愛と恵みに感謝し、親を敬わなければなりません。親を敬うことは、子供として当然な行う本分であるだけでなく、神の戒めであることを知っています。神は私たちすべての人間が守って行うべき本分となる十戒をくださいました。本来十戒は二つの石プレートに刻まれたものです。石版には、1 命令から 4 命令まで記録されたが、これは神の戒めです。心と思いと品性を尽くして神を愛しなさいということです。
第二の石版には第五の戒めから第十の戒めまで記録されたが、これは人間関係に関する戒めです。その第一は、「あなたの親を敬いなさい。そうすれば、神があなたに与えられる地で長寿であろう」という戒めです。神を仕える次に、親を敬うようにしました。親を敬うの戒めは、十戒の中に幸せな約束がついている最初の戒めです。 **コロサイ人への手紙 3 章 20 節に「 子たる 者よ． 何事についても 兩親に 従いなさい． これが 主に 喜ばれることである」**と記録されました。親を敬うことは、神の戒めである以上、クリスチャンは、その親がどれだけ着せてあげて食べさせてくれてたくさんの教育させてたのか論じないでください。
親を敬うならば経済力がない親に肉に必要なものを供給することが道理です。親を 敬うのは、経済的なだけでなく両親の心を喜ばせていただくことが基本的な道理です。もちろん両親の心を喜ばせるために、神の意に逆らって行なうことがあってはいけません。そうすることは、結局、親を大切にするのではありません。イエス・キリストを信じていない親には何よりも、イエス・キリストに導くことが、親を敬うの道理です。そして年老いた両親が信仰生活を熱心にすることができるようお手伝いするのも、親を敬うの道理です。
私たちは必ず留意しなければならないことがあり。これは無言手厚い愛と恵みに私たちを新しく生まれ変わらて、神の子となった神の恵みと愛に感謝を積極的に表現することです。人はこの世に生まれて生きていつかは死に至ります。そして最後の審判で地獄の刑罰に処されます。それゆえ、私たちは永遠の命を得るために、神の子として再び新しく生まれなければなりません。イエスが言わた **「イエス は 答えて 言われた， 「よくよくあなたに 言っておく． だれでも 新しく 生れなければ， 神の 国を見ることはできない 」（ヨハネによる福音書 3：3）**としました。
私たちが神の子どもで生まれるために、神が御子を送ってくださいました。神のひとり子であるイエスが肉体を着てこの世に来られ、私たちの罪を代わりに担当して十字架につけられました。そして 葬られてから三日目に復活しました。それゆえ 誰でも悔い改めて、イエス・キリストを信じれば神の子として生まれかわるようになります。そして聖霊は、彼の愛と力の手で神の子供を大事にしていただきます。
聖徒たちはこの世に滞在中に、自分を生んで大事にしてくださった両親を敬わなければなりません。これは、子として当然に行う道理であり、神を喜ばせることであり、また、神が約束された祝福を受ける道です。そして聖徒たちは罪人が神の子として生まれようために、人の体を着てこの世に来られ、十字架につけられ贖いの死を死んだイエスは、ひとり子を送ってくださった父なる神は、私たちを新しく生まれにした聖霊を心から愛して畏敬しなければなりません。

人が犯す最大の罪は、神の愛と恵みを拒否して軽く思うことであり、次は親の愛と恵みを軽く思って敬わないことです。親の愛と恵みを忘れてしまって無視することは、自分の命を踏みにじる行為であり、親を敬わないのは、神が言約された祝福を排斥する行為です。愛する皆さんは両親をもより敬い、愛し、主にあって両親に従順してください。そして 聖父聖子聖霊である永遠の神を心と思いと品性を尽くして 畏敬し、愛と仕えてください。